

何年か前から考えているのであるが、喜寿を向かえて益々その実感が増している
ので、そのことをお話したいと思います。

草木が花を咲かせ実を結び落葉して、また1年後に再生する。また、蟹や海老も脱皮を
繰り返して成長し再生する。人間はどうかと考えると、さすがに物理的・生物的な大きな
脱皮は無いが、何年かの周期で人生の区切りが来て再生を繰り返しているように思う
のである。伝統的には干支の12年が周期の基本になって、12年×5=60年で還暦に
なったりするが、私には24年周期が根底にあるように思われる。

それが、私の提起する「人生24年回帰」説である。生まれてから24歳までが第1期(自
立まで)、24~48歳が第2期(成長・活動期)、48~72歳までが第3期(活動2期)、72~9
6歳が第4期(活動3期)、96~120歳が第5期(活動4期)であって、第5期末が現在の世
界のほぼ最高齢に等しい。私達は72~96歳の第4期(活動3期)にある。

再生の考えに基づいて、各期末には24歳に回帰し再生すると考えるようにしている。
したがって、退職後の今も数理解析研究所の1室を使わせてもらって研究生生活を楽しん
でいるが、30前の新人の研究者のつもりでいる。ここで、「人生24年回帰」説の重要な
ことは、回帰・再生の後は、過去の業績などは、自分の senior(先代)のものであるから、
junior(子)としては気にしないことである。そうすると過去に囚われずに気が楽になっ
て、自由になれ、歳を気にせずに研究生生活や人生を楽しめるのである。

個体としては、回帰・再生するのであるが、幸い、記憶は継続する。ですから、この記
事を読んでいただいている皆さん、元気で人生を楽しみ、また再会し、懐かしい話を楽
しみましょう!! 世界の平和を祈念しつつ、皆さんお元気で!
